

潟東中学校区（潟東小、潟東中）

【目指す子どもの姿】

9か年の継続した知的探究活動をとおして、潟東を誇りに思い、地域に働き掛けたり、自己の将来について考えたりすることができる児童・生徒

〈 「目指す子どもの姿」 の設定の仕方 〉

潟東校長教頭会で原案を作成し、潟東教職員協議会で全教職員による審議の機会を設定した。教職員の関わりの深さが浸透の深さにつながるの考えからである。次に、潟東小中一貫教育推進会議（地域・保護者の代表による会）で審議。広く地域・保護者に意見を聞くことが必要と考えたからである。そして、最終的に、潟東校長教頭会の場で、これまでの審議を踏まえて小中の校長で決定した。

作成に当たって基本ベースにしたことは、次の4つの視点である。

- (1) 児童・生徒の実態、課題を踏まえること。新潟市生活実態調査の分析が有効である。
- (2) 地域・保護者の願いを踏まえること。
- (3) 各校の教育目標を踏まえること。
- (4) 教育課程に位置付けている生活科及び総合的な学習の取組を中核に置くこと。

① 「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」における小中一貫した教育としての取組

別紙参照：「潟東中学校区における生活科・総合的な学習の時間を主とする計画」

〈 「身に付けさせたい資質能力」とその実現に関わる方法について 〉

【身に付けさせたい資質能力】

- (1) 探求的な学習のよさを理解できるようにするために（生きて働く知識・理解）
 - ・ 課題を多面的・多角的に考察しようとする資質・能力
 - ・ 課題解決のために、様々な人やものと関わりながら探求しようとする資質・能力
- (2) 実社会や、実生活から問いを見だし、まとめ、表現することができるようにするために（思考力・判断力・表現力等）
 - ・ 自ら課題を立て、情報を集め、適切な表現方法でまとめ、他に発信する資質・能力
- (3) 積極的に社会に参画しようとする態度を養うために（学びに向かう力、人間性）
 - ・ 社会の一員として、地域の将来や自分の生き方について考える資質・能力

【その実現に関わる方法】

- (1) 小中で一貫した指導計画を作成し、9か年を見通した単元構成と探求課題を設定する。
- (2) 小中間の連続性・継続性を意識し、目指す子どもの姿の実現に端的に向かう単元・題材として「キャリア教育」「地域活動」「旅行活動」の分野を取り上げ、取組をすすめていく。

② 「9年間を見通した学習の仕方」の取組

「9年間を見通した学習の仕方」の内容

【潟東小・中共通実践事項】

1 学習課題の設定について

- (1) マグネットシートで「学習課題」を明示する。
- (2) 学習課題は赤枠で囲う。
- (3) 授業開始10分程度までには設定する。
- (4) 児童生徒とのやりとりによって課題を設定する。

2 まとめについて

- (1) マグネットシートで「まとめ」を明示する。
- (2) まとめは青枠で囲う。
- (3) 学習課題と整合を図った記述とする。

3 振り返りについて

- (1) マグネットシートで「振り返り」を明示する。
- (2) まとめに至った方法論が書かれたものや、次の時間に向けた新たな問いが生じたことなどを拾い上げて学級で紹介することを心がける。

※「課題とまとめ、振り返りのある授業」の質的向上を小・中共通実践事項を設定して行うことが必要であるとの認識を共有し、それを具体的内容にするよう作業を進めてきた。したがって、「教師に視点を置いたもの」ということになる。子どもに視点を置いた内容の議論に今後入っていきたい。

〈「9年間を見通した学習の仕方」の設定・運用の仕方〉

潟東地区教職員協議会（年2回開催）の「学力向上部会」を中核に、小・中教員で検討を重ね、共通実践事項として毎年改定してきた。

③ 「小中一貫合同研修会」の取組

「小中一貫合同研修会」のねらいや次第・研修内容の概略

○ ねらい

小学校・中学校が「接続」という視点から、中学校区の情報交換を行ったり、問題点を互いに共有したりして、継続してその解決にあたる。

○ 次第

- 1 全学年授業公開
- 2 総会 ア開会の挨拶 イ議事 (①会務報告 ②事業計画審議) ウ諸連絡
- 3 各部会 (小中一貫教育について) 学力向上・生徒指導・総合的な学習・特別支援部会
- 4 全体会 ア各部会の報告 イ閉会の挨拶

○ 研修内容

4つの分科会ごとに、今年度の取組を審議し、決定する。

◎ 独自プログラムの取組

リーフレット「潟っ子9か年の学び」に明示し、全体会の場で周知・共有してきた。実際の運用は、小中の各担当者を中心にすすめている。

〈「小中一貫合同研修会」の実施方法の工夫〉

(1) 春は中学校、秋は小学校を会場とし、授業公開及び総会・分科会を行う。

春に中学校を会場にするのは、中1ギャップ解消の取組の一つとして、中1の授業参観をこの時期に行うため。秋に小学校を会場にするのは、小6の授業参観をこの時期に行うため。

(2) 分科会の部長は小と中で次のように固定。顧問も固定。

	部 長	顧 問
学力向上部会	中学校研究主任	中学校教頭
特別支援部会	小学校担当教諭	小学校教頭
生徒指導部会	中学校担当教諭	中学校校長
総合的な学習部会	小学校担当主任	小学校校長

(3) 保育園は、秋の協議会（小学校開催）で参加を呼びかける。

④ 「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の取組

「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」のねらいやメンバー・次第・協議内容の概略

○ ねらい

小・中一貫教育の推進について、広く地域・保護者の代表から意見を聞く。

○ メンバー

小中PTA三役、小中校長教頭、コミュニティ協議会会長、連合自治会長、育成協会長、民生児童委員協議会会長 計14人

○ 次第

1 開会挨拶、2 自己紹介、3 教職員協議会報告、4 意見交流、5 その他、6 閉会挨拶

○ 協議内容の概略

教職員協議会で審議された取組内容を説明し、理解を得るとともに、地域・保護者の立場や視点で取組に意見をいただき、実践に資することを主な内容としている。

〈「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の実施方法の工夫〉

(1) 多くのメンバーの出席を促すため、18:30 開始、19:30 終了という時間設定にした。

(2) 働き方改革の一環で、学校職員の出席を管理職のみにした。

【目指す子どもの姿】
9か年の継続した知的探究活動をとおして、潟東を誇りに思い、地域に働き掛けたり、自己の将来について考えたりすることができる児童・生徒

【「目指す子どもの姿」を実現するために、生活科・総合的な学習の時間で行う教育活動】

【身に付けさせたい資質・能力】
 (1)探求的な学習のよさを理解できるようにするために
 ・課題を多面的・多角的に考察しようとする資質・能力
 ・課題解決のために、様々な人やものに関わりながら追究しようとする資質・能力
 (2)実社会や実生活から問いを見だし、まとめ、表現することができるようにするために
 ・自ら課題を立て、情報を集め、適切な表現方法でまとめ、他に発信する資質・能力
 (3)積極的に社会に参画しようとする態度を養うために
 ・社会の一員として、地域の将来や自分の生き方について考える資質・能力

【9年間を見通した学習の仕方】

○潟東小・潟東中の教員が共通に授業で取り組む「共通実践事項」を策定。
 ○小中それぞれの児童・生徒に示す「学習の仕方」を小中教職員が相互に確認。
 ○小中それぞれの児童・生徒に課している「家庭学習」の取組内容を小中教職員が相互に確認。

潟東中学校 ※総合的な学習の時間の単元配当表の中から、小中一貫教育の「目指す子どもの姿」実現の中核となる題材・単元を抜粋		目指す子どもの姿にせまるための手立て	
学年	題材・単元名	主な学習内容	
3	○職業と自己の将来③ 「上級学校等訪問」	○中学校及び高等学校卒業後の進路について調査したり、訪問したりして、自己の将来についての考えを深め、進路を明確にする。	○自己の将来について考えるキャリア教育の最終段階と位置付け、卒業レポートにつなげる。
2	○職業と自己の将来② 「職場体験活動」 ○歴史・文化② 関西修学旅行活動	○潟東及び近隣の企業や事業所に二日間職場体験をさせてもらうことによって、働くことについて考えを深める。 ○課題を多面的・多角的にとらえ、様々な人やモノと関わりながら追究する。	○自己の将来について考えるキャリア教育活動であるとともに、旅行活動として、グループごとに訪問先に行く能力や態度を養う。 ○関西をグループで巡る能力や態度を養うとともに、知的探究活動によって知識を深める。
1	○社会のマナー 「食と自然の校外学習」 ○職業と自己の将来① 「職場・文化施設訪問」	○公共交通機関の使い方や公共施設でのマナーを身に付けるとともに、仲間と協力して目的地に行く力を付ける。 ○職業について調査探究、体験活動を行い、働くことの意義や自己の将来のあり方について考える。	○知的探究活動の導入単元として、食と自然について考え、自分の身の周りや地域について知る。 ○地域の職場や文化施設を訪問する活動を通して、地域を知り、将来の自分の生き方について考える。

【独自プログラム】
 ○特別支援教育の推進
 UDの視点での教室整備を共同実施
 ○生徒指導の推進
 家庭での過ごし方を共同歩調で指導
 ○食育の推進
 食育「弁当の日」の年間2回の共同実施
 ○共同地域貢献活動の推進
 地域行事への児童生徒の参加・参画
 ○小中合同あいさつ運動の実施
 中学生が地域各所に出向いての相互挨拶

潟東小学校 ※生活科・総合的な学習の時間の単元配当表の中から、小中一貫教育の「目指す子どもの姿」実現の中核となる題材・単元を抜粋

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て
6	○会津プロジェクト ○夢・未来プロジェクト ○卒業プロジェクト	○パンフレットや旅行のしおり、インターネットをもとに調べ、会津の歴史や文化、自然について課題を見出し、まとめ、発表する。 ○地域の達人から、働く大切さを学び、まとめる。 ○卒業にあたり、これまでにお世話になった方々、校舎へ感謝の気持ちを表す。	○会津への修学旅行を通して会津の魅力に触れ、潟東地区と比べたり、よさを見付けたりしてまとめる。 ○地域の達人の姿や話から、働く大切さを学び、将来への希望をもつ。 ○卒業を迎えるにあたり、感謝の気持ちを表すと共に、これからの自分の生活や生き方を見直し、よりよい生活について考える。
5	○米コメ調査隊	○学校田での稲栽培を通して、分かったことなどを文章や表にまとめ、発表する。	○地域のコメ作りやJA職員との関わりで、学校田やバケツでの稲栽培、収穫した米の販売、調理を行い、お世話になった方々への感謝のイベントを企画し実行する。米と自分たちの生活の関わり、生産者の安心・安全への思いや努力、自己の食生活の在り方を見直す。
4	○環境プロジェクト ○2分の1成人式を迎える自分	○環境活動を計画、実行し、分かったことや考えたことをまとめ、発表する。 ○「2分の1成人式を迎える自分」の成長を振り返り、自分を見守ってくれている人々に、呼びかけや歌、演奏などで感謝の気持ちを伝える。	○環境に関する課題意識をもち、自分たちでできることを実践する。 ○「2分の1成人式」を迎える活動を通して、自分と自分を見守ってくれている人々について考える。 ○「2分の1成人式」を通して、お世話になっている方々へ感謝の気持ちを伝える。
3	○潟東いいところ自まん	○畑の作物栽培を通して収穫の喜びを味わい、お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝える。 ○地域の自然や特産、名人を調べ、分かったことをまとめ発表することで地域を誇りに思う態度を養う。	○畑の名人に教えてもらいながら、かもねぎ汁に必要な野菜を育て収穫する活動を通して、自然の恵を喜び、お世話になった方々へ感謝の気持ちをもつ。 ○潟東地区の自然や特産、名人を調べ、発表する活動を通して自分たちの住む地域に愛着を深め、大切にしようとする態度を育てる。
2	○だいすきかたひがし ○ぐんぐんそだてやさいたち ○のびのびそだて小さな友だち	○町の自然や人々の様子を振り返り、「町の素敵な場所」を考え、探検する。 ○野菜の成長する様子を観察し、水やりや草取り、支柱立てなどの必要な世話をする。 ○小さな生き物を探したり、一緒に遊んだりする。	○地域の自然や人々の様子に関心をもつ。目的別グループを作り、詳しく調べたことを互いに情報交換する。 ○野菜の成長を楽しみにし、進んで世話をしようとする。 ○いろいろな生き物の世話をしたり、育てたりする活動を楽しみながら、生命あるものを大切にすることを学ぶ。
1	○あそびにいこうよ ○ありがとういっぱい	○四季の移り変わりに関心をもち、自然や人々と関わりながら季節に応じて遊ぶ。 ○1年間の出来事や自分のできるようになったことを、ポートフォリオなどにまとめ、友だちに紹介する。	○木の葉や木の実を使って遊ぶものを作り、みんなで楽しく遊ぶ。 ○自分の成長を喜び、多くの人に感謝の気持ちをもつ。